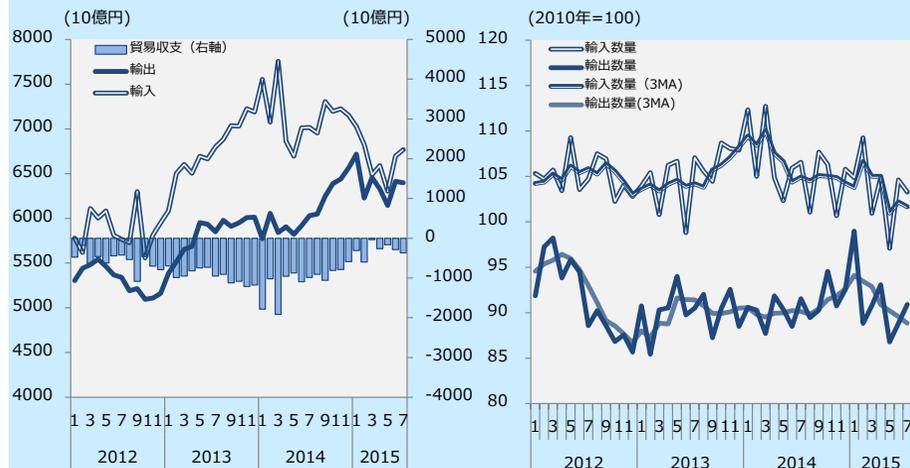


日本：貿易統計（2015年7月）

MRI Daily Economic Points
August 19, 2015

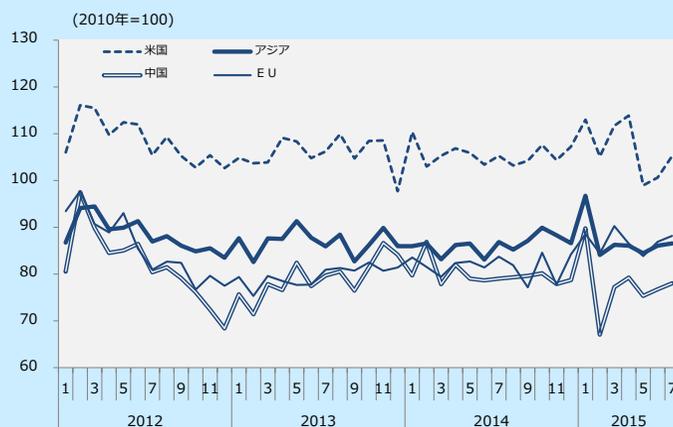
貿易収支

輸出入数量



資料：財務省「貿易統計」。いずれも季節調整値。輸出入数量は三菱総合研究所による季節調整値。

地域別輸出数量指数



資料：財務省「貿易統計」。三菱総合研究所による季節調整値。

評価ポイント

2015年7月の結果

- 2015年7月の貿易統計(名目)は、輸出金額が季調済前月比▲0.2%(前年比+7.6%)、輸入金額は季調済前月比+1.1%(前年比▲3.2%)となった。貿易収支は、季調済値で▲3,688億円と前月(▲2,834億円)から赤字幅が拡大した。
- 輸出数量で見ると、今月は基調済前月比+2.1%※と上昇したものの、均してみると弱い動きが続いている。輸出数量指数を地域別にみると、ともに輸送用機器が好調だったEU向けと米国向けで上昇している。一方、中国向けが化学製品などが弱含み依然低水準で推移するなど、アジア向けでは弱い動きが続いている。

※三菱総合研究所による季節調整値。

- 輸入金額は6・7月は増加しているものの、輸入数量は低水準で推移しており、国内の生産・消費活動が足踏みしていることが輸入数量を押し下げている。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、中国経済の減速などを背景に、弱い動きが続いている。
- 輸出の先行きは、米国の景気拡大と欧州の緩やかな回復により、7-9月期以降緩やかな持ち直しを見込むが、中国経済の減速などを背景に力強さに欠ける展開となるだろう。
- 8月には中国人民銀行による人民元の基準値切り下げが行われたが、アジア向けの輸出のうち元建ての取引は1%強であり、短期的に輸出に与える影響は大きくない。ただし、中国経済が一段と減速すれば、その影響が世界の貿易停滞・生産活動の抑制につながりかねず、先行きのリスクは高まっていると考える。